

丸橋参事官スピーチ要旨

- 外交官としての喜びを感じるのは、接受国の国民と共に喜びを分かち合える時。
- モザンビークに来て未だ2ヶ月余りだが、既にそうした機会に幾度か立ち会うことが出来た。何故なら、日本とモザンビーク両国間には様々な分野での協力プロジェクトが存在するから。
- 本日のテーマであるプロサバンナも日本の対モ協力の一つ。
- プロサバンナは日モ伯との3ヶ国協力。(その例となったセラード開発プロジェクトを非難する発言があったことを受けて)セラード開発計画に陰の部分があったことを全面的に否定する材料は持ち合わせていないが、他方で同事業が食料増産の観点から、日伯ひいては世界に大きく貢献したことを認めないことも公正ではない。
- 本日の会合のように、一部の人たちは、プロサバンナ事業により、土地の悪用、農民の強制移動、大型農業の導入により小規模農民の生活が破壊される等の懸念を抱かれているが、プロサバンナ事業の目的は、「モ」食料安全保障、農民の生活向上。1400万ヘクタールの土地で大豆を生産して輸出するのが目的ではない。
- 多数の小農に支えられているモザンビーク農業と伯の状況が異なるのは明らか。モザンビークの事情にあったプロサバンナ事業を、日伯が協力して、「モ」国民が作っていくことが大切。
- 日本政府は、主役である「モ」政府及び伯政府と共に、対話を通じた相互理解を深めつつ、プロジェクトの成功に向けて協力したい。換言すれば、「モ」の土地は「モ」人のもの、その未来を決めるのは「モ」人。よって、土地の収奪などということは起こらない。
- 先日、ナンブラの農業研究所(IIAM)を訪問。現地のJICA専門家は伯人や「モ」人と一緒に研究している。彼らは、「モ」の小規模農家に適切な作物、耕作方法を研究している。既に具体的成果があり、これらを他の地域にも広めていくことが重要。
- 日本政府の支援の資金は日本国民の税金であり、日本政府の支援は、すなわち日本国民のモザンビーク国民への支援である。本日、同胞の顔もみられるが、日本国民も日本政府の対「モ」支援が正しく、「モ」国民の真の利益、日モ両国の友好促進に適うものか、注視している。
- よって、日本政府が支援する限り、心配されるような事態にならないよう努力していくことを約束する。